



『インスピレーションになろう』 Be the Inspiration

RI会長 バリー・ラシン 第2590地区ガバナー 金子 大

# 川崎中原ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKAHARA R.C. WEEKLY/2017~2018

会長・小泉 正博 幹事・徳安 久是 会場監督・今井 敬 会報委員長・戸張 裕康

事務所・〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104

TEL.044-722-7282 FAX.044-722-0066 E-mail:info@nakahara-rc.com

◆例会場 ホテル精養軒 第1木曜日 PM12:30~ 第3木曜日 AM7:30~ TEL:044-711-8855

## 第 1449 回 (本年度 第 20 回) 例会

平成 31 年 4 月 4 日 (木)

- 点 鐘 小泉 正博 会長
- 司 会 今井 敬 会場監督
- 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- 会員出席報告 江口 進 出席委員長

本日	会員数	出席	欠席	出席率
	27名	21名	6名	65.22%
前々回(3月7日)	欠席 11名	Makeup 3名		80.00%

欠席者: 坂口会員、高木会員、渡久地会員、内藤会員

### お客様紹介 小泉 正博 会長

- ◆ゲストスピーカー  
川崎市長 福田 紀彦 様
- ◆二村 政毅 様 (福岡城東 RC)
- ◆鈴木 憲治 様 (川崎麻生 RC)
- ◆川野 正久 様 (川崎北 RC)
- ◆松波 登 様 (川崎北 RC)
- ◆谷口 一成 様 (川崎北 RC)
- ◆クルズ 由美子様 (川崎北 RC)
- ◆田邊 邦夫 様 (川崎鷺沼 RC)
- ◆内田 治彦 様 (川崎とどろき RC)
- ◆神津 弘明 様 (市川会員ゲスト)
- ◆藤村 伸一 様 (株証券ジャパン元住吉支店長)
- ◆土肥 菜波 様 (坂本会員ゲスト)
- ◆佐野 正 様 (川崎中原 RC 友の会)
- ◆市川 芳子 様 (市川会員令夫人)
- ◆米山奨学生 韓 喬 君

### 会員お祝い

お誕生日おめでとうございます!



若狭 滋則 会員  
都倉 八重子 会員  
(12 月分)

大場 秀幸 会員

### 奨学金贈呈 韓 喬 君



### ニコニコ報告 江口 進 親睦委員長

- ◇川崎 RC 簗口昌明様代理 神津弘明様  
本日は、川崎 RC 簗口の代理として出席させて頂きま  
す。市長卓話楽しみにしております。
- ◇川崎鷺沼 RC 田邊邦夫様  
本日は、メイクアップに参りました。宜しくお願い  
します。
- ◇川崎麻生 RC 鈴木憲治様  
市川さんご案内ありがとうございました。よろしく  
お願いします。
- ◇川崎北 RC 川野正久様・クルズ 由美子様  
福田市長の卓話、楽しみにしておりました。宜しく  
お願い致します。中原 RC の皆様、いつもお世話にな  
りありがとうございます。
- ◇川崎北 RC 松波 登様  
お世話になります。
- ◇川崎北 RC 谷口一成様  
本日メイクアップに伺いました。よろしくお願い致  
します。福田市長の卓話楽しみにしております。
- ◇川崎中 RC 萩原ひとみ様  
本日は福田市長様、卓話ありがとうございます。よ  
ろしくお願い致します。  
川崎新田ボクシングジムの黒田雅之選手が 5 月 13 日  
東京ドームで世界タイトルマッチに挑戦します。4  
月 14 日(日)15:00 商工会議所 KCCI ホールで壮行会  
を行います。資金集めのご支援と応援をぜひよろし  
くお願い致します。
- ◇川崎とどろき RC 内田治彦様  
川崎市長福田紀彦様におかれましては「アメリカ視  
察」の卓話を楽しみに参りました。
- ◇小泉 正博 会長・徳安 久是 幹事  
本日は大変お忙しい時間をさいて頂き、市長福田様  
のお話を拝聴させて頂くことに感謝申し上げます。  
毎回楽しい内容でしたので、本日も大変楽しみにし  
ております。ありがとうございます。

## ◇市川 功一 会員

福田市長、本日はお忙しいところありがとうございます。昨年夏頃からの「ラブコール」が今日やっと実現しました！

## ◇堤 研司 会員

川崎中原ロータリークラブの皆様、2年間ありがとうございます。ロータリー精神を忘れず頑張ります。

## ◇SAA一同

本日は、福田市長をお迎えしての例会です。福田様ご多忙中にお越し頂きまことに有難うございます。勉強させて頂きます。

### 「みんなニコニコ」

福田市長、ようこそいらっしゃいました！！

江口 進 会員・中村 敏史 会員・若狭 滋則 会員  
神谷 直 会員・山本 剛 会員・島田 叔昌 会員  
Mr. SUZUKI 会員・会田 公雄 会員

ニコニコボックス	本日	36,500 円	累計	429,500 円
記念日ニコニコ	本日	10,000 円	累計	85,000 円

### 卓 話

川崎市長 福田 紀彦 様

### 「臨海部ビジョンの実現に向けた 海外先進事例視察報告」



本日は、アメリカ視察についてお話をさせて頂きます。なぜアメリカ視察に行ったのかということですが、昨年3月に川崎市の臨海部ビジョンというものを策定しました。

これは30年先の臨海部がどういう姿であったのか、それに向けてどういうことを私たちやっ

ていかななくてはならないのかということ、行政だけではなく、立地企業の皆さんを含めてすごい議論を重ねて約2年間かけて臨海部ビジョンというものをつくりました。

川崎市の中で法人関係税がだいたい1000億ありますが、そのうち約4割の法人関係税は臨海部だけで納めていただいています。なので、これからも臨海部が元気でありつづけるということが私たち川崎市にとっては大変大切な課題であります。

臨海部は石油化学あるいは、鉄鋼というところが集積していますが、その業界の動向は大きく変化しております。例えば、石油とかエネルギー関係があるところが、世界の中でどういうところに製油所を置こうか、精製所を置くのかというのは、日本の中のコンビナートの集約というのがありますが、世界的なところでどういうところに拠点をおくのか決まってくる。あるいは、鉄を昔のように単純な鉄ではなく、ものすごい高機能な鉄を作り出しているというのが今の川崎の現状です。

ただ、だんだんだんだん面積が昔ほど小さくなってきました。ここで川崎がどういう産業転換していくの

かというのが、先ほど申し上げた川崎の生きる道というものを探っていくというためのビジョンを作りました。そこで、視察に行ったわけですが、ニューヨークとボストンどこが似ているのかと思われると思いますが、いずれも港湾都市です。港湾で製造業、特に重化学工業系で発展してきた街です。特にニューヨークのブルックリンというところを主に視察してきました。

そのことをお話しさせていただきたいなと思います。ご案内のとおり、ボストンとニューヨークというところは、緯度は青森・北海道このあたりでありまして、ボストンとニューヨークの間は350kmで、東京・名古屋間ぐらいの距離があります。

視察先は17か所をみて、とにかく、歩いて歩いてという形で1日15kmを歩いた日もあって、だいたい10kmぐらい歩いたというもので、自分の目で、とにかく歩こうということで行って来ました。

ニューヨーク、ここがニューヨークのマンハッタンですね。マンハッタンのイーストリバーを挟んで右側、右下がブルックリンというところ。ニューヨーク市が5つの区に分かれてまして、そのうち最も大きな区がブルックリンです。ここに250万人住んでいます。アメリカの最大の都市はニューヨーク市でありますけれども、5区の区ごとに分けてひとつの市と考えても全国でロサンゼルス、シカゴに次いで大きい市と言えると思います。

このブルックリンというところは、まさに製造業・港あるいは、ここでお示ししますけれども、ネイビーアートと言われるように、1800年代の江戸時代の頃にすでに海軍の造船所があったところです。そこからずっと製造業でやってきたのですけれども、やや産業の転換とともに非常に定着に厳しい時代が来て、1970年代1980年代にどんどんさびれていって、ちょっとシャビーなところだなど、非常に治安も良くないそういうところになったと。2000年代になってから、ここを市がこのままじゃいかんということで、買い取って土地開発公社みたいところが買い取って再開発事業みたいなことをやり始めました。

このペースでいくと、すごいなという、こういうみていただくんですね、こういうところですね。位置関係としてはこういうところ。ブルックリンのネイビーアートというところ。造船所のところ。昔の1970年代ぐらいの写真ですけど、なんとなくわかりますよね、川崎の工業地域に非常に似ている絵だと思いますが、これがどのように変わっていくかというのを資料からお伺いしました。

こういったところ。岸壁クレーンみたいな、やや動いているものがありますが、ほとんど動かなくなっている、使わなくなっているというところ。こういった古い建物がものすごく点在してまして、もともと倉庫だったようなところを大幅にリノベーションしてですねオフィスが入っていたりします。こうい

った既存の倉庫というのをそのまま扱っているのですけれども。

これなんか、大型の倉庫だったと思うんですけども、リノベーションしてこういった大きな倉庫とか、それをフロアを作って、こんな風にやっています。ここでまさに製造業からサービス業まで様々なスタートアップの企業がどんどん入ってきていて、非常に若者が好んであるいは、ベンチャー企業のこれから何かを売り出しているという人が好んで入るクリミアルになってきています。こういうリノベーションの仕方があるんだなというふうに思っていて、これ本当に倉庫があったところがこういう風になって、交流スペースもできたりしています。

この建物もすべて窓のない倉庫のビルでした。これを全部ぶち抜いて、窓をつけて、オフィスにしてそこに入っています。だいたい 300 社ぐらい入っていると聞きましたけれども、だいたい 4000 人ぐらいの人たちが新たな雇用で生まれてきている。それ以前は先ほども申し上げたようにネイビーアートの造成所として全く機能しなくなったので、そこにある雇用もほとんどなくなったところから、もう一度こういったリノベーションをしてこういったものを生み出しています。

このような、ビルだったのが、2階のところですけど、ない。こういう風になるほど倉庫だったのかなというイメージがありますけれども、すごくレストランができたり、実はここは労働者が非常に多いのですけれども、食べる場所が近くになく、川崎の臨海部が全く同じ問題を抱えています。こういったところですね、非常にいいアイデアだなとおもったのは、こういうレストランのいわゆる加工場として工場を作って、その前だけ、前面はむしろ皆さんこの人たちに食べてくださいとサービスを提供している。

メインは製造なんです。ただ、製造工場の前面にみなさんが食べられるようにしているというのが、この一棟一棟全部にこういうのを貼りつけているという使い方をしてしています。北上はムコチンだったところが、こういうふうになっています。ブルックリンの野菜というのが、ブルックリン産の野菜ということで大変高価な値段で市内のレストランに出されていて、環境にうるさい人ですとか、そういう人が好んで食べるという商材、食材になっています。

これは建物から撮ったブルックリンの繁華街のオフィスです。もうひとつ同じブルックリンのところで、これも倉庫群だったところです。それが今、商業施設に代わるというところで、まさに港、川に沿ったところに場所があったわけですけども、それが全然使われなくなってしまったところをもう一回民間主導でリノベーションしています。

見ていただくと、まだまだ使われていないこれ、線路が、貨物の線路が昔、いっぱい貨物って出していたころなんです。港にクレーンがついて、荷物を外に出していくというものだったのが、今は一切使われていない。

その跡が残っているだけです。

ただ、見ていただくと、あっちはマンハッタン島で高層ビルが連なっていますが、わずか、イーストリバーを挟んで目と鼻の先です。川崎のどっかに似ていないかと、まさに、東京と羽田空港、そして、川崎の工業地域が開けるといって、こういう位置関係から考えると、私たちの臨海部ってこれものすごくこれ可能性はあるよということブルックリンがすごく証明してきているんです。今回こういった既存の昔の古い倉庫だったところがみごとにリノベーションをして、中は新品の建物になっているんです。こういった倉庫群も古い建物でありますけれども、これも内装だとか、外装を変えて躯体だけは残っていますが、中は全然違っているふうになっています。

こういった本当に古いレンガの造りだったりしていますが、うまいこと使っています。これは、大変な大手の設計事務所、非常にクリエイティブな仕事をしています。ワンフロアぶち抜いてきれいに作り出して、ここに多くの雇用が生まれているということでありませぬ。同じ倉庫の中でもですね、このような使い方ですね。そして倉庫の中にさらにシェアオフィスというものが作られて、これはホテルのような感じでけれども、これ倉庫の中です。倉庫の中に一部シェアオフィスというものがあって、高級感がある、ものすごい高級感があるシェアオフィスというものを作り出していたり、こういう使い方がされていたりします。

フールドコート、これも、倉庫だった名残を出していますけれども、これを若者たちが好んで、今仕事がなくともここに遊びに、食べにくというくらいですね。非常に面白いところになっています。

これも同じようにですね。わざわざ見せているんですね。作っている。これチョコレート会社さんでしたけれども、わざわざ倉庫街の中に製造業を入れて、見せる形で私たちの製品はこういうところで作ってやっているんですよと、これを見学するためだけにくる人たちがたくさんいるんだそうです。

次にご紹介するのはですね、公園です。ブルックリンとマンハッタンを繋いでいる、その橋のブルックリンブリッジの、そのまさにたもと、ここが公園として整備をされました。これもわずか、15年間の間にですね、ここに非常に汚いところだったんですけども、これを15年ぐらいで一気にきれいにしたということなんです。昔はこんなところ、倉庫がブルックリンの橋のたもと、倉庫があって、船を作ってもこのあたりというのは、非常にスラムでですね、だれも15年前は誰も寄り付かないというところで、この高速道路を右の方へ上の方へ行くと山の手で、超高級住宅街なんです。一本わきに入ると本当に寂れたところだったのを、緑にしてみましたということです。すべて公園にしてしまっただけで、どんな形になったかということ、パーベキューができたり、そのまま倉庫を活用してですね、バスケットコートを作ってしまった。マンハッ

ンのビルを見ながら川を挟んでバスケットという部分が日常的にこうバスケットをやられるというのがいやでもうまく使っているわけですね。倉庫を壊すことなく。そしてどうしてこういうものができたのかというのが、実はこれ民間手法なんですけれども、税金は維持管理に一円も入っていません。これは有名なホテルになりましたけれども、マンションというのは、いくつかは建っています、公園の一番端に。ここはもうまさに高級ホテル、高級マンションというのを作って、その賃貸の料金で、この緑だとか全部整備してしまう。維持管理をしようという形で、私たちの公園の作り方、あるいは維持の仕方というのは大変参考になりました。

これから等々緑地というのも民間手法でパークマネジメントというのを、これから入れていこうと思っ

ていますけれども、こういった参考になるなという風なものでございました。何しろ、私たちは、公園だとか、公共のものを維持管理するのはものすごく税金が多額な費用が掛かっている。これ、どうにか民間の人たちの資金を入れられないかということで参考になるところがありました。

次の公園ですけれども、ブライアントパーク、マンハッタンの中です。マンハッタンの中なんですけども、これは大変なスラム街で、15年前まではとにかく私の案内してくれたガイドさんも、お財布をすられたそうです。この公園に一步踏み込まれたら警察も入れないと。警察も怖くてこの公園には入れないというぐらい、大変ガラの悪いところで、それがですね、ものすごい転換をしました。ご覧なつての通りですね。ガラの悪い公園の周りにはですね、高層の非常に高級なオフィス群ですね、ただ、オフィス群の隣でも、非常に治安の悪かったところに、周りの企業の皆さんに1㎡あたり何ドルか拠出して下さいと、いうことで、公園の維持管理のために、㎡あたりいくらと、本当に微々たるお金です、を公園の維持管理のために拠出していただけないでしょうかという

ことで公園整備が始まりました。そして劇的に変わりました。こうやってですね、これを仮設のスケートリンクを作ろうかとうようなことをやっていたけれども、これは、仮設のレストランですね、こういう風なのを貸し出してそれで賃料収入をもらって公園の維持管理をするという、こういったキヨスクみたいなものもあるんですけれども、これは24時間ではないと思うんですけれども、夜もこうやって空いているので夜でも安全、光があると安全ということで治安対策にもなっていると、こういう使われ方をしています。

これもやっぱり驚いたのは、結果、賃料のところ

に少しだけ拠出していただけませんかといったところによ

って、公園が生まれ変わり、緑ができたことによって、逆にオフィスの価値が上がってですね、その賃料がさらにお客さんから取れるという転換がされると、ですから、都市の中の緑地だとか公園だとかというのは、どれほどその価値を生むのかというのに私たちはもっともっと意識していかなきゃいけないのだなという風に思っ

ています。

でも、その手法の全部を行政がやるのではなくて、民間の資金を使って、そして民間の人たちかそれによって土地の価値を上げるというサイクルにしていくことはですね、もっともっと可能性あるなということを感じさせてもらいました。

実は川崎の特に臨海部ではですね、工場立地法というのがあって、それによって、どれくらいの緑地を持っていなければなりませんという風な決まりがあります。約20%ぐらいです。ものによっては、%の違いがあるようですが、2割を緑地帯にするというのは製造業にとっては大変なことですね、わざわざ、誰も使わない、公園だとか、緑を一つの会社で敷地内に維持しなくてはならないということなんですけれども、実は今の企業の皆さんはですね、工業立地法ができる前から立地しているの

ので、今何か増改築をするというとその規制がかかってきます。いわゆる既存不適格状態ですね、で、これをじゃあ建物を50年たってきた、60年たってきたからそろそろ臨海部の企業は再投資するタイミングなんです。設備だとか、建物だとか。しかしそれをやってしまうと、緑地規制に引っかかってとても建てられなくなっちゃうので、そのままどうしようという状態になっているんですね。これを私たちは臨海ビジョンをもとにですね、どうやったら規制を突破できるかと、緑地の面積は減らさずして、人々に使ってもらう緑地を作るかといことを検討しています。

それは敷地内じゃなくて、共通の各企業が敷地内に10%、20%緑地を持つんじゃないかと、まとまった土地を共同で緑地を持ちませんか。という風な形で緑地を飛ばす、そのことで、こういうような、公園だとか、本当に人々が使える緑地帯を作ると。今、そういった企業の中でですね、誰も一番邪魔ですから、本当に緑地は製造業の人に邪魔としか思われていない、その誰も使わない通りの裏、あるいは、敷地の一番目立たないところに緑を植えているというのが今の現状です。しかし、そうではなくて、緑地を飛ばすとか、あるいは、共同で緑地を持てるようにすると、他の域外に緑をもっていくとか、いくつかの方法を考えると、よって、臨海部の企業は再投資してもらおうと。そして、緑の方を保全、あるいは、作り出すということにですね、できていかなのかなということ

を今こういった視察から考えているところです。

余談になりますけれども、これは同じブルックリンのところ

です。まさに摩天楼のところにこっちのブルックリンが終わっているのは、まだまだ古い倉庫とか建っていますけれども、ここが大きく変わろうとしていてですね、これ昔の、工場です。これが今、高級なホテルに生まれ変わりました。これホテルなんです。後ろの。水のタンクだったところが高級なバーになりました。今最もニューヨークの中でも、予約が取れないホテルの一つになっているそうです。このようにですね、まだまだこの、まだシャビーなイメージがあり

ますけれども、こういうところに若者が入ってきて、今ブルックリンという住所を会社に持ちたいという人がものすごく増えています。ですから、今までブルックリンというと、治安が悪いエリアという風に言われてきたんですけど、今や、ブルックリンという住所をみんなの会社の人たちは、住所を入れたい、そこにオフィスを持ちたいというまでに変わってきました。ですから、決して何か古いものをこわして新しいものを作るというだけではなくて、今ある既存のものをどうやってうまくつかっていくか、ブルックリンらしさを残していくかについてもものすごく注力しているということは、正直びっくりしました。

私たちもそういうことができるのではないかなと思っています。

これも余談ですが、ブルックリンからですね、マンハッタン島に車で行くと大体朝 40 分以上かかるといっています。ただ、このフェリーに乗ると 7 分で到着すると、ということで、水上交通が非常に発達してきたという感じですね。これまで日本でも水上交通というのはほとんどないんですけど、これから実は水上交通というのが結構見直されてくるという風に思います。

ボストンにもですね、新たに水上交通、あまりにも都市化が進んで、渋滞が激しいので、そこを水上交通でつないでいこうという取り組みをこれから増やしていくことなんです、世界の都市がですね、色んなこの乗り物というものにこれもできるんじゃないか、あれもできるんじゃないかという取り組みの人が水上のフェリーですね。これ、朝 7:30 前ぐらいだったんですが、わーっと並んで、大体一度に 400 人ぐらいが乗れるって言ってましたから、それがばんばんばんばん行きかっているわけですね、バス並みに。こうやって、マンハッタンに働きに行く、帰ってくるというエリアになっています。

スライドはこんなところでありましてけれども、このように川崎の立地と今の現状と、そしてこれからの未来ということを考えた時にですね、大変参考になる事例というものがありません。アメリカから帰ってですね、この話をしていましたら、松任谷由実さんってご存知ですよね、松任谷由実さんのジャケットなんかを手掛けているアートディレクターの森本千絵さんっていらっしゃるんですが、この方とアメリカから帰ってきたときに会ったときにですね、ユーミンが二子玉川と二子新地をつないでいるあの橋がありますよね、あの橋を何って言うのか知っていますかと聞くので、えっ何ですかというんですね、ブルックリン橋って呼んでいるんです。えっという話で、本当ですか、いや、ユーミンがどういう意味合いでそう言っているのかわかりませんが、もしかしたら、マンハッタンが世田谷でブルックリンが川崎という位置づけなのかもしれません。ブルックリン橋のたもとで曲を何曲も書いているんだそうです。

このようにですね、川崎のポテンシャルってすごくあるんで、あの臨海部だけではなく、臨海部もこういう風

な転換していくという、狭く、余った土地というのは出てきても低未利用土地というのがだいぶ出てきました。実際に JFE、鉄を作っているところですけども、JFE のもっている土地がだいぶ未利用になっているので、これ川崎と一緒に絵を描こうと、おっけい絵を描こうというのを今議論し始めています。そこにどんな作業をもってきて、新しいものを踏み出していくのか。今、キングスカイフロントという旧いはず自動車の跡地だったところですね、羽田空港の目の前です。あそこは、自動車型を作っていたところが、今や、薬を作る医療機器を作る、最先端のエリアになってきています。

さあ、次の臨海部の拠点はどうな新しい産業をもっていかうかというのを今まさに議論をしているところです。こういったところですね、一冊報告でございます。緑の使い方はもっともっと研究していかなくてはならないなと思っています。等々力の緑地はですね、僕すごくもったいないと思ってまして、平日昼間、等々力がそんなに人がいません、あんだけ人がいるというのは、フロンターレのホームの試合の時はいます、最近、ブレイクサンダースの試合の時人がいます。だけど、あそこ、日常的にあそこをうまく利用しているかといったら、そうではないですね。今、等々力緑地のところは、駒沢のオリンピック公園よりも、実は敷地面積としては大きいんです。実は首都圏であれだけの面積を誇っているところっていうのは、大変貴重なところなんです。そこを毎日、平日、夜を含めてもっともっと活用できるようなですね、プランをこれから考えていきます。

今回 3 回目の卓話させていただきましたけれども、全部アメリカシリーズということで、市川さんのだいぶ好みが入っているとは思いますが、こういうことをぜひ視察に行つて何やっているんだろうなと思われることもあるでしょうから、こういう視察報告ができれば本当にうれしいなと、機会をいただいております。

私からの卓話は以上でございます。





----- 質問

とどろきロータリークラブの内田です。いつもお世話になっております。

羽田と川崎の飛行場をもっと近くに何かを繋げるといような話を数年前から聞いているんですけども、今後そういうようなお考えはあるんでしょうか。

橋なのか、地下鉄なのか。

-----

橋を今現在、作っております、来年完成目指して今ものすごい勢いで工事やっているところです。2020年完成を目指して、今ごりごりやっているところで、普通橋掛けるのに10年ぐらいかかるのですけどですね、普通はですね。それを4年でやってしまおうという、ある意味、すごい荒業をやっています。ということで、羽田と川崎が橋で800mつながるので、羽田側でだとか、川崎側でだとかいう話はもうなくなると思います。あるエリア一体が臨空都市というか、エリアとなって、東京側だ川崎側だという風な不毛な議論じゃなくて、あのエリア一体で面白いことが始まってくるんで、そのためのいい橋が今ちょうど、お答えです。来年には、ぜひ見に来ていただければと思います。

最近、私ちょっと勉強しているのがですね、ナイトタイムエコノミーって聞いたことありますでしょうか。夜の経済なんですけれども。

実は日本は夜の経済というのがほとんど未成熟と言われていまして、海外に行きますと、アメリカもそうですけれども、フランスとかそういったところは、夜で歩くと、例えばエンターテイメントがある、演劇がある、食べる場所がある、飲みに行くところがあるとかというのが、夜のエンターテイメントにシシユツする割合というのがものすごく多いんですよ。それに比べて日本はものすごく少ない。全体の観光客が使うところのわずか3%くらいしか夜は落としていないんですね。そこをですね、川崎は羽田空港から、京急乗ると13分で川崎駅まではつきますから、そしてトランジットで使っている3時間・4時間を羽田で滞在する人たちっていうのは、海外の人たちというのはたくさんいます。3時間を川崎でどううまく受け止めるかという話ですとか、夜の時間帯をもう少しうまくできないかなということは今考えています。

ですから、なかなか治安、安全の問題というのもあるんですけどもね実はロンドンなんかはですね、すごくそれをうまくやっていて、民間のセキュリティ会社の人達をしっかりとつけてですね、そのエリアに完全に夜でも

安全として、夜の経済というのを活性化させていると。だから、まだまだ伸びしろがすごく日本にはまだまだあってですね、川崎においてはそういう立地に有利なところなので、こういった取り組みも含めてこれから頑張っていきたいなと思っています。

----- 質問

方向が小杉ということもあるんですが、ちょうど1年前にですね、1000人収容のコンベンションセンターが反対側にできましたよね、これは市長に質問することなのかというのがありますが、ちょっと最近あそこがあまり利用されていないのかどうか、そういう噂というか、そういう方もいるんですが、1年間を通して何か市長の方でお答えできることがあれば。

-----

実は当初の1年とか1年半というのは、人がなかなか利用しないというのは最初から織り込み済なんです。ああいう、コンベンションホールのところは、お客がつくまでそれなりの時間がかかるというのがあって、目指しているのは医療関係だとか、そういう業界だとかも、どんどんコンベンションやって下さいとかというプロモーションをかけているんですが、去年はそこでやっていたというのから、場所を移してくるというのはそれなりに時間がかかるというので、来年はあそこにしようね、再来年はあそこにしようつというようには、若干時間がかかるので、そういった意味ではあまり心配していないというか、想定内という感じですね。ですから、これからお客さんがついてくるというのは見込んでいます。

実は値段が高いので市民の皆さんが使うにはあの厳しいというご批判もいただいておりますが。

----- 質問

等々力の地下鉄とか、凍結になったとかあるんですか。あれは前の市長で凍結になって、2015年でしたっけ凍結になったのは。何か羽田じゃないんですけども、計画とか、お考えがあるのかなと思って、せっかくなので。

-----

地下鉄自体は廃止という形にしましたので、そこに新たに路線を引くということは、おそらく、まず、考えられないですね。

一方で、鈴木さんいらっしゃいますが、新百合ヶ丘のところ、あざみ野から新百合ヶ丘への横浜市営地下鉄のブルーラインの延伸というのは決定してですね、横浜市長と共同でやっていこうということにしています。あそこのラインが連結すると、首都圏全体の広域的なネットワークが大体つながってくるという意味ではすごく大事な路線だなと思います。

何でも大きな環状部だとか、放射線状だとかということにちゃんと乗っかっていることに、鉄道だとか、高速だとか絶対的に必要なところなんですけど、そういうところでは、昔の川崎の縦貫鉄道の構想というのはややそうではないよねと。だから、なかなか見通せなかったというのが廃止の大きな理由だという風に思います。